

協働事業調査票

協働事業の名称		美住リサイクルショップ運営事業	年度	平成28年度
所管課		ごみ減量推進課	種別	新規 継続
協働形態		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 後援 <input checked="" type="checkbox"/> 協力・連携 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他(市長が委嘱)		
協働事業の経緯と目的	市民団体(美住リサイクルショップ運営委員会)	<p>経緯としては、循環型のまちづくりに向け、市民の協力を得て、ごみの減量、リサイクル活動の普及及び資源の有効利用等を図るため、平成10年に美住リサイクルショップを設置した。</p> <p>目的としては、市民の立場から同じ市民への啓発事業を行うことにより、特に無関心の方、ルール違反者の層に対して行政では出来ない視点で廃棄物減量の意義を伝えている。また、美住リサイクルショップ《夢ハウス》を、東村山のごみを減らす市民の活動拠点として運営することにより、誰もが気軽にごみの減量や環境の問題を考え、行動する場を提供できる。</p>		
	ごみ減量推進課	<p>経緯としては、循環型のまちづくりに向け、市民の協力を得て、ごみの減量、リサイクル活動の普及及び資源の有効利用等を図るため、平成10年に美住リサイクルショップを設置した。</p> <p>目的としては、行政と運営委員会とともにショップを運営し、再生家具の販売、フリーマーケットの開催、リサイクル講習会を行い、市民に対してごみ減量、リサイクルの推進を啓発していく。</p>		
協働で行う理由	市民団体(美住リサイクルショップ運営委員会)	行政、運営委員会が協力し合って啓発活動を進めることにより、より市民と一体感をもってごみ減量、リサイクルの推進を図ることができる。		
	ごみ減量推進課	行政、運営委員会が協力し合って啓発活動を進めることにより、より市民と一体感をもってごみ減量、リサイクルの推進を図ることができる。		
実施内容		<p>美住リサイクルショップでは、今年度はリサイクル講習を17回行った。定期的な活動は、衣類陶器の引き取り、12回、おもちゃの病院と引き取り、9回。情報誌夢ハウスだよりは、全戸配布で年間3回発行及び月間予定表を適宜発行しごみの減量方法やタイムリーな記事を掲載している。駐車場(庭)でのフリーマーケット(3回開催)に加え、7月にサマーイベントを実施。5月の夢ハウスまつりでは、食品ロスの特典に取り組んだ。とんぼ市として不用品情報の公開をし交渉成立することにより多くの廃棄物がリユースされている。市内イベントにてごみの減量、生ごみのたい肥化などを啓発した。久米川東小学校への出前授業の依頼に対応した。平成28年度のごみ講座は「ごみとくらしの未来をえがくソーシャルデザインの紹介」をテーマにサンパルネコンベンションホールで行い、80名参加があった。</p> <p>①リサイクル講習17回②衣類・陶器の引き取り12回③おもちゃの病院9回④市民ごみ講座(ごみとくらしの未来をえがく～みんなで作るソーシャルデザインの紹介～)1回⑤フリーマーケットの開催3回⑥月刊予定表の発行:適宜発行⑦広報誌「夢ハウスだより」の発行年3回⑧小学校への出前授業(久米川東小)1回</p>		
事業実施のプロセス	市民団体(美住リサイクルショップ運営委員会)	目的、企画内容について、十分な話し合いができたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できた	<input type="checkbox"/> まあまあできた
		対等な立場で協力して事業を行えたか。	<input type="checkbox"/> あまりできなかった	<input type="checkbox"/> 全くできなかった
		互いに必要な情報を共有できたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できた	<input type="checkbox"/> まあまあできた
		役割分担や責任の所在は適切だったか。	<input type="checkbox"/> あまりできなかった	<input type="checkbox"/> 全くできなかった
	ごみ減量推進課	事業後に課題や改善策等について話し合ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できた	<input type="checkbox"/> まあまあできた
		目的、企画内容について、十分な話し合いができたか。	<input type="checkbox"/> あまりできなかった	<input type="checkbox"/> 全くできなかった
		対等な立場で協力して事業を行えたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できた	<input type="checkbox"/> まあまあできた
		互いに必要な情報を共有できたか。	<input type="checkbox"/> あまりできなかった	<input type="checkbox"/> 全くできなかった
		役割分担や責任の所在は適切だったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できた	<input type="checkbox"/> まあまあできた
		事業後に課題や改善策等について話し合ったか。	<input type="checkbox"/> あまりできなかった	<input type="checkbox"/> 全くできなかった

協働事業調査票

協働により得られた効果	市民団体 (美住リ サイクル ショップ運 営委員 会)	平成28年度も登録団体や他団体との協力をすすめ、夢ハウスの認知やごみ減量への関心を高めた。美住リサイクルショップの来館者数や窓口での売り上げなどに成果があらわれた。ロビー展示を充実させることで、より多くの来館者に、ごみ減量、リサイクルへの啓発を行うことができた。 また、登録団体にイベントや講習への参加を呼びかけることにより、より多くの市民が美住リサイクルショップの活動にスタッフとして協力することができ、拠点としての意義を深めた。
	ごみ減量 推進課	美住リサイクルショップの来館者数を増やすという実行計画目標があり、平成28年度も、運営委員とともに協力しあい、10月にリニューアルオープン1周年記念フェア・3月にスプリングフェアを開催することで、認知度をより高められた。来館者も最終目標の25,000人を上回り、大きな成果をあげた。
検討課題	市民団体 (美住リ サイクル ショップ運 営委員 会)	今後は、現状の限られた運営委員の人員と量、予算を踏まえた上での、イベントや講習の参加者を増やすための効果的な手法の検討が必要。 また、行政との目的や問題意識の共有、情報・意見交換をさらに深めることも必要である。
	ごみ減量 推進課	美住リサイクルショップの運営委員と行政との意見交換や情報共有をさらに深めることが必要である。